（一）　號九十百七第　（日曜日）　日二月七年四十四治明　刊休日翌之日祭及曜月　（日刊）　（可認物便郵種三第日十…）

京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年 紀元二千五百七十一年
本紙定價 一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 五號活字十七字詰一行金五十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久静一郎
發行所 京城西小門 京城新報社 電話大三番 振替口座東京四五六番
仁川支局 仁川中町三丁目
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

●神經衰弱の豫防（六）

此の恐怖を豫防する一種の方法は常に姿勢を正しくするにある。恐怖を起して慄へるやうな場合には、姿勢を正すと隨分抑へる事が出來るものである。憤怒恐怖を抑制する方法は他に幾種もあらう。各自撰擇して其の弊を除くやうにせねばならぬ。

其三　精神慰安の注意

精神過勞が神經衰弱を惹起す最大原因であるとすれば、精神を過勞せしめず休息を與へ、慰安を與ふる事が最良の豫防法である事は云ふまでもない。項分けとして見ると。

（一）睡眠。睡眠と云ふ事は精神に休養を與ふる最良法である。稼ぐに追付く貧乏なしと云つて、碌々寢もせずに働いたら成程金は儲かるう。儲けた金で牛肉も食へようし、土藏も建てる事が出來よう、けれども肝腎の體は駄目に成つて仕舞ふ。體を壞してまでも金儲をせねばならぬ。牛肉を食はねばならぬ。土藏を建てねばならぬと云ふ人は論外として置いて、苟も自己の精神肉体を貴重なものと思ふ人は、金儲の時間を割いても一定の時間だけは眠むるやうにせねばならぬ。睡眠の休養を與へて精神も肉体も活動が出來る。三晩も四晩も眠らずに働いた後の苦痛、損害は、到底三晩や四晩働いたゞけのもので償ふ事は出來ない。犬などは百二十時間眠らせずに置くと死ぬる。人間も五日も眠らずに居ると大熱を發して大病人になる事は往々ある例である。人次第では十分睡眠する時間を持たぬ人もあらう。そんな人は晝夜の區別なく相當の時間だけは眠る事にするが宜い。一定の時間即ち相當の時間は何時間かと云ふと。其れは第一年齢にも關係するが、嬰兒は一日十二時間以上、小兒は十時間、青壯年は八時間と云ふのが相當の時間である。けれども睡眠にも熟睡と不熟睡とがある。熟睡は能く精神肉体を休むる事が出來るが、不熟睡では効能がない。十分精神機能に靜止を與へる事が出來ない。從つて神經衰弱の原因になる。其處で何うすれば熟睡が出來るか、第一は寢室の注意である。何るたけ靜かな室を寢室としたが宜い。物騷がしい室で安眠は出來ない。又寢室内の温度換氣に注意せねばならぬ。寢具は輕いものを撰んだが宜い。重い寢具は安眠の妨げとなる。運動不足も運動過度も慎まねばならぬ。飲食後の睡眠も惡い。空腹中の睡眠も不可ない。茶、珈琲などの刺戟物も禁物である。枕の硬いのは睡眠を妨げる。睡眠前に複雜な事を考へると充血する。到底熟睡は出來ない。眠られぬ時は念佛を唱へる人がある。鼻の頭を見詰めて居る氣で、精神を散らさぬやうにする人がある。乘法の九々を唱へる人がある。何れも催眠の一つである。頭を身體より高い位置に置く事は催眠の第一條件で頭を身體より低くして眠らうとしても眠られたものではない。

●金融機關設置請願

慶尚北道迎日灣に金融機關設置請願の爲め同地の内地人及朝鮮人を代表し稻田仲藏及吉田俊藏の二氏廿九日入京不知火旅館に投宿したり兩氏は卅日度支部財務課長藤原氏を訪問し事情を具申し寺内總督へ請願書の傳達を請へる由なるが其理由は迎日灣は陸に數十里の沃野を控へ海に巨萬の富を藏する天然の一大呑吐港にして實に釜山以北元山港に至る唯一の良港なるが去る卅八年五月内地人の來往を見し以來逐次發展し今や正に内地人七百人鮮人五千餘人に激増し交通機關も大邱に至る廿二里間に人車馬車の開通を見昨年の輸移出入貿易額の如き約七十萬圓に達したり然るに金融機關としては僅に鮮小農民の助長機關たる地方金融組合一ヶ所の設備あるのみにて電報爲替の如き稍高額に上るものは現金を受取る迄に三五日を要するを以て商人の多くは自轉車を驅りて大邱又は釜山銀行に赴き用を便ずる有樣にて斯くては到底大發展を爲す能はざるを以て其情諒察の上政府の特別保護ある慶尚農工銀行の支店を浦項に新設ありたき旨を陳情せるものなりと

●長春の貨物連絡

長春に於ける東清對南滿鐵道の貨物積替連絡狀況視察旁々將來の彼我連絡の設備調査に關し過日滿鐵會社の庄司運輸課員同地に出張取調ぶる所ありしが其結果によれば兩者の連絡關係に就ては何等の煩累もなく極めて圓滑に行はれ輸送貨物も漸次増加し來たり北方より長春を經て南下する貨物は木材を最多とし大豆麥粉等之に次ぎ木材を除きて日々平均十五六車を下らざるの狀況となり又南滿より北進する貨物は石炭を除きては種々なる雜貨品にして其到着地は大抵哈爾賓にて消費さるゝ者の如し其輸送の數は平均日々二十車内外にして昨今の如きは其積替等に關して頗る多忙を極め居ると云ふ而して北行の雜貨品は多くは上海經由の歐洲品にして食料品最も多く此外支那人需要の雜貨も頗る多き由にて近來北滿に於ける人口の増殖と共に雜貨品の需用次第に増加し來るの趨勢なりと又大豆の東清線を經由し南下し來たるもの多きは一寸注目すべき現象にして其一因は相場の關係に由るべきものもあるべしと想像されつゝあり現に角田露國鐵道輸送關係は頗る關鐵に趨きつゝあるは喜ぶべき現象と謂ふべし

●平壤の新民團債

平壤小學校第二校舍新築に就ての三萬圓の民團起債につき民團當局の意嚮を聞くに當民團に於ては返却未濟の團債總計約五萬圓之れあるを以て更に三万圓の團債を起さん事は頗る苦痛とする處なるも敎育事業に對する設備は一日も等閑に附し難き事なるを以て覺に起債と決したる次第なるも今回の團債は出來得る限り長期の据置となす事を圖らざる可らず則ち民團の希望としては五ヶ年据置五ヶ年賦返濟位に爲さん考也と

●鎭南浦輸入近況

二十七日入港したる汕頭丸にて輸入されし貨物中同地陸揚の分は大和鍋十三個繩百六十三個叺二百個蠟燭五百二十五個セメント二十個荷車四臺分十二個明太二百六十三個若芽三十九個其他雜貨品等合計千二百九十九個百八十四噸餘なり而して同地經由平壤へ輸入したるは叺百七十個繩十個丸釘三百十個ミルク三十五個麥粉二百五十個陶器六十一個精糖五十個等重なるものにして合計八百三十八個八百六十噸餘なりといふ

●慶南の恩賜事業

慶尚南道に於ては恩賜金に依りて經營する事業の一部として東萊機業傳習所へ鮮人の子弟を入所せしむる事になり本日釜山管内の十四面より撰拔したる生徒二十一名の入所式を行ふ由にて若松釜山府尹臨場して訓示をなすと云ふ

召使お初　第九十二回

墨法師



「有難き御意でござります」と若江は思はず膝を進めて奥方の前に平伏し「容易ならぬ秘密お文、お道どのゝ御身上に御疑ひ掛らせてござりまするも、お道どのは存じあらせず、御用聞き海老屋の兵衛悴徳右衛門に頼まれ、彼の一通持參、當お奥へ上つたは、お道どのお召使察に相違ござりませぬ」

「ど」と澤野は得意顔に「召使察がその本人とお云ひかの」

「いかにも御意、當人から委細を申し出てござります」

「おほゝゝ」と澤野は手の甲を口に當て「什麽を御意かと思へば、お文持參の當人、お道どの召使お察とお云ひぢやの、おほゝゝお道どの召使お察とお云ひぢやの」

「察はもと海老屋の家に奉公しておつた、中働と申すことござります」

「若江どの」と澤野は脂多き聲「あなた年齢は幾歳かの、十三や十五の小供ではあるまい、少しは物の道理を御存じもあらせうがの、假令そなたは小供に劣らせ在しても、私は大人でござるからの、さほど淺果敢な口上に、欺かれるものではござらぬで喃」

「お年寄、そは何故でござります」と若江は聞捨なるまじく「察の罪科紛れ無く、在樣を申し上ぐるが、お取り上げないでござりまするか」

「外々お奥の規模は知りませぬ、御當家置せられて、家來の落度は主の落度と定まりありまする、察はお道どのゝ召使でござらぬかの」



「されぞれ道どの實御存じなき事を以て、御處刑の御沙汰あらせられるは、た上御仁政とも心得ませぬ、察は一伍一什を白狀、如何な御咎めを蒙るとも、毫恨む處無きやうに申し居りまするで、一應察を御取調べの上お道どの御不審の廉あらば、如何やうとも御詮議あらせられて……」

「聞かぬわの、そなた申しの事、もう聞かぬわの」と澤野は斷然と云ひ切つて「うれ相生どの在さぬか」

相生は三の間に詰めてありき、直に應じて

「これにござります」

「お道どののまだ御出まし無い、御前樣御意匆々此へと申し登るぢや」

「心得てござります」

相生の座を起たんとする時、奥方は徐かに脇息を放れさせて

「それに及ばぬ、相生待たうぞ」

「澤野申付けまするを、御前樣御差止めでござりまするな」

澤野は不平なりき、お道をこれへ呼び出して、再び起つこと能はぬまで、赤恥辱を與かせてと企て居れるを、萬一奥方の爲めに妨げられては、百日の説法を一日に疎忽に灰となさん怨みなり、後々御叱を蒙るまで、奥方思召しを進らでは協ふまじと思ひ付き、主に對する禮儀も缺ぐまで、詞強く云ひ放ちぬ

「私が申し付くる、相生近う來」

主よりは澤野に忠實しく事ふるをもて、御家公の秘訣と心得居る相生も、面前奥方に呼び止められては、そを辭まんやうもなく膝行り入りて、若江の平伏せる次の方に手を支きぬ、奥方御目は水の如く澄しかりき

京城新報

本町道路の擴張（三）

本町通一帶の地、元これ我居留地として、吾人前回に述べしが如く、幾多の迫害を凌ぎ、在住者之が爲に慘憺せしこと屢々なりしも、堅忍不撓、終に能く今日あるを致せしものなるを以て其根底の深きこと亦容易に拔く可からず、現に民團の富力殆んど此處に集中しをれるにあらずや、而して內地人發展の狀勢に顧みるも、南山に面せる全部の地區及び明治町永樂町櫻井町等何れも自然に本町通を中心として形成せられしは勿論、之等各町の繁榮は本町通より波及し、本町通とは唇齒輔車の關係を有せるを以て、勢ひ本町通と消長を同ふするの傾向を示しつゝあるも亦疑ふべからざる也。然るに或者は併合後京城市勢の一變せるにも拘はらず南村の一隅に屏舍して京城の繁榮策を云爲するの時節にあらずと云へり、斯る民團發達の歷史を無視し、民團の財力を減殺せんとする無責任の放言には吾人耳を假すの値なしとせるも、假に說者の言を容れ、本町通を如今の儘になし置くとせむか、他に如彼內地人の密集地區を形成することの容易なるかを反問せざるを得ず、否說者の答を待つまでもなく、三尺の童子猶能く其不可能なるを解す、殊に況んや、財力根底の一朝一夕に造られしに非ずして艱難玉成の結果なるを思はば、說者の所謂南村一隅の繁榮策と雖も、決して是れ徒爾ならざる也。

民團の發達は財源の涵養に俟たざるべからず、財源の涵養は在住者の富力を增進せしむるに在り、若し一朝本町通の疲弊衰退を見んか、民團に及ぼす影響の大なるを想はざる可からず、吾人之を以て本町通及び其周圍各町區の隆昌を目的として起れる道路擴張期成會の擧を贊す、更に交通上より觀んか、京城市中交通頻繁なる地區は、本町通を第一に推さざるべからざるは、事實既に之を證せり、而かも總督府始め半島統治の諸官廳の所在地に近接し、之等諸官廳に行かんと欲せば、何れの方面よりするも本町通若くは之れに接續せる町を通過せざるを得ず、故に外來の客にして本町通を視ざるはなし、如此京城全市中最も樞要の地點を占め、衆目を惹く甚だ多き本町通にして、現在の如く道路狹隘を示しをるは、都市の面目を損するものにあらざらんや。

道路擴張を必要となすの理由且りて頗る多きも、吾人の目に對する世人の誤解を正すに之を敗々せず。

終に臨み。期成同盟會が其目的を逐ぐる迄には幾多の困難に遭遇する事あるべきも、之に屈せず、可及的依頼心を排し、個人の利益觀念を離れ、偏に公共の爲に盡すてふ決心を以て終始せんことを會員諸士に警告す。

東京電報（三十日發）

▲伊藤公昇位說　日韓合併論功行賞は旣に終了したるが故伊藤博文公の三週年紀念祭を期し正一位に叙せらるべしと聞く

▲東京の大出水　連日の梅雨一日も晴れざるに一昨三十日又々東京市に大出水あり各區の被害尠なからざるが同日夕刻調査の浸水家屋數は淺草區五百戶下谷區五百二十一戶麻布區百三十一戶芝區百戶にして其他本所深川方面の被害も甚しく降雨は今尙止まず人心恟々たり

▲三皇孫葉山御成　三皇孫殿下には御母君殿下が今一日御床拂あらせられたるを以て明二日葉山に御成四ヶ月目にて御對顏あらせらるゝ事に仰出されたり

▲電車の市營決定　東京市參事會にては電車市有に決し五名の調査及び交渉委員の選定をなしたり

▲連日の降雨　今回の豪雨は東北地方に多く五月雨の天候持續し居る爲め當分快晴の見込なし

雜報

●各道長官會議

一日　各道長官會議は總督官邸に開かる同日午前七時半頃より各道長官を始め山縣政務總監、倉富、荒井、木內、宇佐美、小松の各部長官、石塚取調局長、俵副總裁池田通信局長官、小城長官代理、明石警務總長は各道警務總監部憲兵司令部の各課長を隨へ參列其の他各部局課長等何れも參集せり午前八時に至るや寺內總督には先づ簡單なる開會の辭を述べたる後約一時間半に亘り別項の如き訓示をなし最后に總督は更に地方行政、警務、敎育、土地調査、財務、農工業、森林、漁業等の各項に亘り約二時間詳細に指示する所あり同日の會議は之れにて止め散會したり

●總督府明年度豫算

總督府明年度豫算は目下各部に於て夫々審議中にして近々度支部に取纏め更に長官會議に付する筈なるが明年度は各別目新らしき計畫殆んどなく既定の國庫支出金と土地調査事業の進行に伴ふ自然收入の增加及關稅收入は少なくも本年度以上を計上し得べきを以て其收支は殆んど何等の深き考慮を要せずして査定さるべしとの事なるが只朝鮮師團の常設案が若し實行さるべき場合には警務憲兵の警備機關費に於て多少の減額を加へらるべしと云ふ

●二日目の道長官會議

二日は日曜日なるに拘らず一日に引續き總督府會議室に於て開會內務部關係の諮問事項に就各道長官の答申及各道長官より提出せる意見に就き議する豫定にして爾後八日迄連日午前八時より正午まで會議すべしと

●天日鹽製造成績

廣梁灣に於ける天日製鹽の成績は目下工事の進行と同時に傍ら製鹽をなしつゝあるものなれば天候と相待ちて確實なる實收成績を限定し難きも之を昨年に比すれば本年は鹽田の慣れたると製鹽方法にも熟したると天候も快晴なりし結果一般に成績良好なりと云ふ

●總督の訓示

各道長官に對し

客年十月朝鮮總督府の設置に際し各位を會合し施政方針の綱領を披陳し各位の循行すべき所を示したり爾來諸般の施設漸次其の步を進むるに方り各位は克く創業の難局に處し中央の計畫に伴ふ地方行政の實績を擧げたるは本官の深く諒とする所なり顧ふに積年疲憊を重ねたる民衆を扶掖し混沌の中に秩序を求め殘頽の裡に振興を促さんとするは當面の急務にして其の煩雜なる古今東西に類例を見ざる所なり之に加ふるに少數の議員と寡額の經費とを以て多端の劇務に當らむとす本官は其の事情を詳悉せざるに非すと雖も既定の政費に限りありて初めより完備を望み難きを以て中央と地方とに論なく一般職員は其の任務を執行するに方り上下力を戮せ時別の奮勵に依て員數の不足を補ひ費額の缺乏を充たすの外なし且夫朝鮮行政の局に當る者は諸般の秩序既に整頓せる內地に於ける場合と異り其職務の遂行上啻に企畫を案じ意圖を示すに止まらず自から進て戶每に誨へるの細心なかるべからず之れを同時に規律の重すべきに最も緊切なる處にして朝鮮の現狀に於て殊に其の然るを感せずむば非ず蓋し一二官規を紊る者あれば曖昧の下民或は之に由りて疑念を一般官吏に挾み延て其の威信に影響なきを保すべからず況や非常の變革に際し民態未だ全く平穩に歸するに至らず動もすれば非圖を企て紛擾を釀すの虞ある時機に於てをや是れ本官が乏を朝鮮總督の大任に承くるに方り最も痛心苦慮せし所なり然るに各位は孜々として其の任務に鞅掌し下僚を督勵して大過なからしめ或は郡守を會し又は自ら管下各地を巡歷して親しく朝鮮統治の聖旨を訓告し尙ほ憲兵隊長警務部長以下の職員と協力し一般人民に對し本官の發したる諭告の趣旨を周知徹底せしむるに於て殆ど遺憾なかりしが如し併合以來未だ一閱年ならずして衆民能く適從する所を知り一般の狀勢は從來よりも一層靜謐に赴き民間の事業も亦新政の實施と相俟つて著しく發達したるは因より聖明の德化に因ると雖も地方に於ける上下官吏の勤勞も亦與りて力あることを疑はざるなり我が　天皇陛下は治化を朝鮮に施くの初に當り蒼黎綏撫の意を昭にせられむが爲め罪刑諸般の罪四中情狀の憫諒すべきもの一千七百十一人に對して特に大赦を行ひ給ひたり赦免を蒙り監獄を出でたるもの孰れも無限の洪恩に感泣して正業に就き更に刑辟に觸れたる者稀なり又兩班儒生の耆老にして舊恩賜を蒙れる者は一萬二千百十五人にして孝子節婦の旌賞せられたる者三千二百廿人に及び皆悉く空前の惠澤に感激し或は賜金を附近の罹災者又は貧民に配與して其惠を頒け或は其の幾分を敎育費として郡衙に獻納し或は之を醵出して殖林、桑園、養蠶等の事業を起し又は善政碑を建設して恩賜を永久に紀念せむとし絕て恩賜を徒費するが如き者無きは最も喜ぶべき現象なりと謂ふべし又各道十二府三百十七郡に配與したる臨時恩賜金一千七百二十九萬八千圓は地方長官に於て客年十月の訓令に基き其の目的たる授產敎育及凶歉の救濟に充てむが爲め各地其の實狀に適應するの措設を執り各道を通じて其の重なる事業を擧ぐれば實業獎勵の方面に於ては之により新設せる養蠶傳習所三十五箇所機業傳習所二十箇所其同業十三箇所苗圃三十七箇所桑園四箇所傳習所三箇所製紙傳習所八箇所漁撈所共同授產場八箇所授產講習所四箇所にして定住及巡回は敎師約百五十名に上り又た敎育の方面に於ては新設せる公立普通學校百三十三校同じく實業補習學校七校補助を與ふる公立學校二百十七校に及び著く其の計畫の實行を見るに至れるは本官の滿足に堪へざる所なり又た國稅滯納の完納及計數の還付より見て更に秋季の地租五分の一輕減したるに拘らず客年十月以降本年三月に至る半ヶ年間の國稅及地方費收入額は良好なる成績を示し之を前年の同期間の收入に比すれば實に九十三萬八千餘圓を增加せり又本年一月より五月に至る貿易は未曾有の盛況を呈し之を前年の同期に比すれば輸出及移出に於て百五十八萬七千餘圓輸入及移入にて七百七十五萬三千餘圓の增加を見るに至れるが如き一面に於て生產力の發達を表はし他方に於て一般需用の擴張せる事實を示すものと謂ふべし（未完）

●本年度地方費額

二十日　內務部調査に係る本年度地方費豫算中各種補助費獎勵費總計百三十二萬九千七百二十九圓なるが之れを各道別に記せば左の如し

京畿道	十九萬六千二百二十二圓
忠淸北道	四萬一千九百二十九圓
忠淸南道	九萬四千二百三十九圓
全羅北道	十万九千百八十二圓
全羅南道	十一萬四千九百八十五圓
慶尙北道	十二万〇七百〇二圓
慶尙南道	十四萬三千八百七十二圓
黃海道	十三萬九千四百四十三圓
江原道	四万〇四百九十四圓
平安南道	二十萬八千四百九十二圓
平安北道	五萬五千六百九十三圓
咸鏡南道	三萬八千二百八十二圓
咸鏡北道	二萬六千九十四圓
計	百三十二萬八千七百二十九圓

●憲兵隊長會議

各憲兵隊長は一日午前中各道官と共に總督の訓示を受け午後一時より木村臨時測量部長柴軍參謀長小倉軍經理部長の諸氏の講演を聽けり

●明石總長の訓示

隊長會議開會以來連日訓示を與へつゝありし明石總長の訓示事項は三十日を以て終了しなりと

●分遣所長會議

京城第二憲兵隊に於ては今一日より二日間管下の分遣所長會議を開く

●西朝鮮貿易

西朝鮮に於ける貿易が近來急激に增加の傾向あり現に六月上半月鎭南浦平壤新義州各稅關の通關額を見るに合計六十餘萬圓に達し其細別を揭ぐるに

稅關	移輸出	移輸入
平壤	二一、一三八	八五、〇四一
新義州 龍岩浦	七二、六一一	六二、七三五
鎭南浦	二一一、五三三	一四八、八二五
合計	三〇五、二八二	二九六、六〇五

となる而して平壤通關貨物が十萬餘圓新義州龍岩浦が十三万餘圓鎭南浦が三十五萬を數ふるに於ては各港の趨勢を窺知すべく一月以降累計は平壤百二十三万新義州九十四萬鎭南浦二百六萬合計四百二十萬を越へんといふ

●人蔘價格の騰貴

朝鮮人蔘の淸國に於ける相場は今春來非常に高騰し昨年の今期に比し殆んど昨年の小賣價格が本年の卸値段なるが如き比例なりと云ふ因みに人蔘價格の高騰は淸國民の需要を減少せしむるの傾向あれば喜ぶべき現象にあらずとの事なり

●本町道路擴張期成會

既報　本町通道路擴張期成同盟會は來る三日日本人商業會議所樓上に發會式を擧行する筈にて今日迄出席申込者百五十餘名に上れりと因に同會にては發會式委員として古閑岩助、小川勝平、江里口和吉、安井又慶、釘本藤二郎、田村義次郎、梶原末太、進辰馬、淵上貞助の十氏を擧げたり

●總督訓示集出版

當地某氏は寺內總督が就任以來部下に訓示せしものを大成し一冊の美本となし出版せんとす思ふに官民間に歡迎さるゝ事となるべし

●給水契約の紛擾

京城水道の配給に關し京畿道廳にては今回從來の給水をなしつゝある重立ちたる者と熟議し其身元保證金を徵して契約する事に內定したるが昨一日其契約をなさんとするに當つて水商の關係者間に紛擾を生じ京城道廳へ數十名押寄せ混雜を極めつゝありしが道廳にては何人と契約するとも何等水商間の意圖を顧慮するの要なく適當なる資格を有するものに給水受負をなさしむる可ならずやと唱へ居れり

●城津の細民救濟

咸鏡北道城津に於ける細民の窮狀は實に慘たるものにして當局官憲は百方救濟の道を講し居れるが過般郡廳及警察署協議の上郡內の有志二十二名を召集し救濟方を懇諭したるに一同其意を諒し現金八百四十圓玄米十二石を醵出して無利息にて貸與するに決したり

●慶北の鷄卵貯蓄組合

慶北密陽郡にては今回鷄卵貯蓄契なる一組合を設けたるが農家の副業として養鷄を獎勵し且つ鷄卵を貯蓄して利殖を計るにあり目下契員二十餘名に過ぎざるも追々增加すへし更に契員共同にて飼育場を設け食鷄の養成を計る筈なりと云ふ

車中より

山水道人

報知の天南君曰く

「イヤ岩瀨君の云ふ通り、マア釜山ではあれ丈けに民團財政の整理もつき。稅關山も切り取つたのは。前の理事官龜山君の御陰かも知れぬ。」

「處がサ、釜山の連中はアレで始終龜山君にケツを叩かれて居てあの始末ぢや。若し夫れ釜山に人ありアベコベに龜山のケツを叩いたものなら。マダマダあんなものぢや無い。龜山は全く偉才ぢや臺灣に逃がしたのは惜しかつた。釜山としては龜山君。僕等の大邱ではあの川上君を平安道に取られたのは惜しかつた。良二千石は少ないものサ」

時に汽車三浪津に着し。報知の天南君は馬山に去る。余も後部の車室に移つて知人を訪ふ。

傍らに一野翁あり。粗服にして黑面。相手選ばず話すを聞けば。折々耳に付く奇言警句。眼光定まつて人を射るは凡ならず。やがて知る名古屋の實業家富田耕治君。現に東拓大株主の一人として。三等室に是を見るは生きた報德宗。

富田君曰く

「東拓へ二三の交渉事件がありましてな。夫れで一寸京城迄。イヤ大した用でもありませぬが。東京大阪の有志にも賴まれ。自分でも是非必要があると信じましたでな。先づ第一。東拓の出張所を內地に置き。株券の名義書替並に配當受渡等の便宜を計る事。第二。東洋興業株式會社（資本金百五十萬圓）合併の內相談の有無確かめの事。第三。東拓株を各取引所に懸物となす事を會社側に承諾せしむる事。第四。端株整理の事。第五。內地に於ける東拓大株主の朝鮮視察團体組織打合せの事。第六。重役の責任持株數を增加せしむるの件。五十株やうこらで監査役でもありますまいテ。ワシも御蔭で去年は大分儲かりました。株十三圓で買つてジッと仕舞つて置きましてな。二十七圓のよい處でサツと手放し仕ましたよ。千三百餘りを子。夫れでめんた一株で十四圓の稍でがせう。メて一万八千兩は荒つぽい仕事ぢやが。」と云ふてワシは決して株の定期などはやりませぬぞ。どうも當節の若い人は元氣が無いノ。ワシの伜は養子ぢやが。一時はスックリ伜に身生をツブされたが。ツブされたワシは又作つた。ツブした伜はまだ出來ぬ。バイハイ心臟が惡くて全く氣一つで持つて居ます。今年六十で。」

と富田老人中々の元氣なりやり手なり

フト見れば群山で會つた度支部の藤原財務課長ツイ先の一等車に有り去つて之を訪ふ。

「ヤア過日は御勞れでしたらう。いや僕もあれから全州へ行つて群山に引き返し。木浦を經て榮山浦光州を見。又引返して木浦に出で釜山迄船で廻つて馬山晉州。今やつと三浪津から乘り込んだ處です。群山では面白い講話なぞやられたさうですネ。」

長途の田舍旅行に憔悴の色無し。

「何んの彼んのと云つてる中に仕事は相當に出來て行く樣です。今度は大分田舍を廻つたが。道路など前に比べて著しき發達が目に付きました。」

語り進めば余が舊友岩崎君とは氏も亦同窓の舊友なりとぞ。

「舊友の情だけは別ですネ」

友を愛する是熱て敵を愛する聖賢の道途のみ。出でゝは友を愛し入つては妻を愛せよ。見を愛せよ。此愛を推して此世に及ぼさんかな。斯の民に及ぼさんかな。是達人の要意のみ。

●韓銀券製造と引替

韓國銀行券新造と共に舊銀行券は追々引替へする筈なるが其引替全部を終了するは五ヶ年の日子を要すべしと云ふ而して今回新造したる五圓券は東京にて一圓券及十圓券は朝鮮にて各々製造したるが韓銀の改稱期も近々なれば更に銀行券面も改造するの必要あり其新造には約二十万圓の費用を要すとの事なり

●國分檢事長の招待

國分檢事長は二日午後六時より明石總長山形高等警察課長を始め各道憲兵隊長警務部長司令部總監部各課長を花月樓に招待し盛宴を張るべし

●訂正

六月三十日本紙一面揭載藤井水利組合長の談話中二十二行目に「周回實に八里に餘る貯水區城內に、垣々として連なれる九百町步の耕地をば池底に葬つて幾個の村里を亡ぼし云々」とあるは記者の誤聞にして、前記貯水區域は既に再三述べたるが如く往昔大貯水池の廢跡にて、該貯水區域內存在したる僅少の耕地は降雨の其都度水害に犯され耕地として殆んど一定の收穫を見る能はざる底のものに屬したるものにして且該貯水區域內には曾て村落の如きは一も存在したる事無しとの事なるを以て茲に是を訂正す、猶組合長藤井氏の談話は匆卒の際聞くに隨つて記錄したるものなれば文責記者に有り讀者諒焉

●當選議員と通知

三十日當地日本人商業會議所議員の選擧當選者に對し今一日選擧委員長高橋事務官より夫れ〳〵當選の通知を發したり

●諸官衙の執務時間

總督府及所屬諸官衙の執務時間は今一日より毎日午前八時より正午迄となれり

公人私人

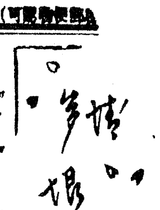
▲川崎卓吉（石川縣事務官）卅日巴城館
▲橫山隆俊（男爵）同上
▲山崎幹（石川縣金澤病院長）同同上
▲李圭完（江原道長官）同本田旅館へ
▲和田世民（高知縣事務官）同山本旅館
▲玉崎隆三（帝國生命保險會社事務課長）同浦尾旅館へ
▲二宮熊次郎（新聞記者）三十日平壤行
▲乘杉嘉壽（關東都督秘書官）同上
▲相田十八（醫師）同大邱行

▲京城手形交換高▼

月日	金高	枚數
七月一日	二三二、三七五、六九〇	六〇四三

▲治外法權▼

過日京城民會が出した自治体存續の陳情書へ寺內總督が眼を通されたソウだ、サテ花は色々、民團解体後の樂は幾らもある、聞かましきは總督自身の肚だ▲國分檢事長が地方巡回から歸つて來た、サテ地方監獄の現狀はドーカ、問題が問題故誰れもダマッ居るが、總長巡閱の結果は是非とも公表して世人の惑を解かれたいものだ▲筑前の富豪安川敬一郎は、百五十萬圓を投じて工業學校を設けた爲に、今度政府から叙勳の沙汰を受けた、叙勳素より當然の事だ、併し安川の人物と事業とに徵し、勳三の瑞寶では何だか物足ない樣だ▲ソレはソレとして、何時ぞや、安川と東拓の宇佐川が汽車に乘り合せた事があつた、其折安川は謙遜自ら持し、或人の紹介により、宇佐川に向かつて、私は安川敬一郎と申す者、何卒れ見知り置きを願ふとやッた、時に宇佐川傲然と構へて曰くフフウー君の名は安川、シテ君の渡世は何かと▲アー筑前の安川も東拓の宇佐川には其の名を知られなかつたのであつた、併し开は知られぬ人の罪か將た知らぬ人の罪か▲安川と云へば彼れは日本銀行株券の番號の揃つたヤツを何千枚と云つて所持して居る、彼れや資金の要るときソレを束の儘で銀行へ預ける、銀行は束の儘で預かつて資金を融通する、安川の財界に於ける信用實に當世無比だ▲銀行株と云へば不思議な事もあればあるもの、此頃は韓銀株を賣つて東拓株に乘り換ゆる者がポツポツあるとの事だ、片や市原、片や宇佐川、ドッチが勝つか見物だ▲京城商議の撰擧も濟み、新顏も大分出たようだが、サテ會頭は誰れか▲商議の重きを爲すと爲さゞるとは會頭其人に因つて決す、議員の重望今何人にある乎。



京城 藝妓の半生(四九)
花月の小達磨(三)

弱きものよ汝が名は女なり、一生の苦樂男子に委るとかよ、頼む木蔭に雨漏りて三度棄れば其の纖弱き身と腕とに浮世の仇浪と戰はざる可らざる運命に逢着したるなりき、戀ひつ慕はれつ子まで産したる情人との戀は敗れつ、さりながら、此れも浮世の常と諦められぬを諦めて何事も縁ぞや神の思召ぞと結ばれし縁に男大切とかしづき居たるに幵も又頼みなの運命なりし、哀れと覺し召せ。「妾や醉はなきや此の胸が」てね逃候は即ち此れが爲めなりと知らぬが佛の冶郎達鼻毛を伸ばしてノツサクサ出掛ける所を後から見れば可笑しう御座るぞた笑ひ召されいだ、本文に入る、斯くて四十三年の八月下旬た馴染のある京城で一稼ぎと景氣の好かつた昔を夢みて同年の九月一日一ヶ年二百圓の契約にて花月かられたのである、然るに出る匆々からアノ甘い調子に釣り込まれてテンと堪らぬと打ち込む者も多い内にも總督府の某殿は振られても振られても振られたと氣が付かずに通つて御座つたが肝腎の小達磨は當地東四軒町に住居の農學士で金澤さんとか云ふ滿洲を股にかけた人を生擒な仕つたので隨分念入の鼻下長先生も漸くに氣が付いて引き退つた、小達磨元來滅多に男に惚れる如な弱い尻を持つた女でない金澤君の如きも○がわればこうである一朝○にして無くなつた、すれば只の人となる、だ、然るに氣の毒な如な氣のすることには金澤君目下手元甚だ不如意とかで移り替りの無心所かや碁屋へのれ件もならず花月に遊びに來ることさへも遠ざかる、玆に於てか吾人熱々稀ふるに從くなる程薄くなるもの世に泳車の姻のみならんやだ、其の「頼み少なき人心」の見本は此頃小達磨が製造して居るのだ話しは元へ戻つて金澤君と關係のついた當時即ち昨年の十一月頃旭町二丁目とかに住居の池田と云ふ人とも何でしたので現に本年の二月奥樣が米倉町の工藤病院に入院せられた當時なぞ小達磨は奥さん面を提げて入込んで居つた、イ、ヤ秘しても駄目だ、イ、ヤ駄目だ何んと云つても駄目だ現在僕は子供を伴れて行つて見掛けた事がある、とは嘘だが現に角左様した噂がある、斗りぢやない奥さんの御病氣が輕快に及んだので工藤君は退院しなさいと云ふのに池田君は不承知だ「嫁後が大切だからモ少し置いて呉れ玉ね」と云つて引き取らない「大丈夫だから引き取り玉へよ奥さん淋しくて困つてるよ」と工藤君が云ふ「イヤ病氣には安靜が第一だよ、桑に角モ少し置いて呉れ玉へ」とれ醫者樣の云ふ如なことを云つて奥さんを體の良い不法監禁に處した事もある、その噂もあるイ、ヤあるのであるのだ、夫れから彼れには猶は白水の夢なるものもあるが此れは預る事として筆を擱かう。

漢城病院と娼妓
▽一方はニコ〳〵で
▽一方はシク〳〵だ

京城民團が新町遊廓の病院問題から手を退いて以來娼妓の檢黴は七月一日より漢城病院で行ることになつた玆に於て景氣附いたのは安藤君で迷惑と云よりは寧ろ當惑したのは娼妓でありますのだ今迄にして見ると新町病院は診斷料は無料、藥價は原價、運搬くして入院するにしても食事は樓主の方から運び込むから之れも無代、一日宛藥價の三十錢もあれは澤山であつたのが今度此度の改正法に依ると診斷料が一回二十五錢宛の月四回で一圓、豈夫に新町から明治町までテク〳〵も出來ないが故に往復とも電車―は本町通りに無いから人力車で此の料金一回往復五十錢の四回で二圓運惡く入院する段になると一日一圓五十錢を要する、無事であつても一ケ月三圓宛は缺かさず負擔せねばならぬ事になる青息吐息片息にならざるを得ませんでしよう、其處で萬一一ケ月も入院すれば五十圓の借財を背負はねばならぬ、併し娼妓の借金が殖れば殖ねる程漢城病院の懷が好くなると云ふ次第兩方好い理由には行かぬと見ゐる、現に角娼妓の數を二百五十名と假定して此の診斷料が一ケ月也二百五十圓、夫れに此の度の治療方針は全部入院させ如何な輕症にても通院は許されざれば醫者が一つ頭を捻ると二日や三日は是非共入院せねばならぬ其所で一日一圓五十錢と來る不味いものを食はされつゝ借金することになる夫れが平均二十人宛はあるべし、とすると一日宛三十圓一ケ月宛九百圓の增收となつて娼妓は毎月缺さず千百五十圓を注ぎ込む譯なり此れが漢城病院だから未だ好いので若し怪し氣な病院であつて見なさい何うだ收入を增す爲に手加減をするは知れたことだ、と思へば歸めがら首を出して喜んでるものがある……つ……ま……す……と愚痴の中か

●意氣汚なの小奴 仁川

敷島遊廓一山樓娼妓小奴事村本マツヱ(二六)は先頭來より當地に二世と契りし男が出來たので偶の逢瀨を樂しみに苦界の勤も意に介せず年期の明くのを指折り數へて待侘び居りしに近頃の蒸し暑き夜の廓も只だの素見かし客斗りにて一向景氣も附かず去ればにや好い掠鳥も宿らぬより小奴の胸は一時たりとも彼の男の事が思出されて忘られざるより去月中旬より毎夜十時頃男を呼出し小奴は同樓の裏門よりソッと拔出で遊廓裏手の元守備隊跡の山の麓に媾曳を頂ね人目を忍ぶ其風情何日しか他人の知る處となり毎夜怪しき男女の二人が時を違はず守備隊跡の方面に往來するとて近所の評判となりしか未だ前記の男女正体が何人なるやは知る人なかりしに一昨三十日夫れと聞きたる其筋にては同じ時刻を違はず見張て居るとも知らぬ男女二人の本体こうは現はれたるより直ちに取調べて見るに右の仕末と判判し訴へられたりとは餘り好い樂しみも出來ぬワイ

●東亞煙草の新製品 同會社

にては朝鮮在住者に品質を精撰し最も呑口良く且頗る低廉なる口付煙草を供給せんとし豫て研究中の處愈七月一日より廣告欄に揭載の通り兎印なる口付を發賣することとなれり其品質は比較的佳良且同社從來の賣煙中斷かる低廉のものは此回が始めてなり同社にては來る七月六日を期し正午十二時より漢陽公園に於て右兎煙の發賣を普知せしむる爲め煙火數十本を打揚げ尚當日は日本官煙小賣業者の重なるもの數百名を招待し運動會を催す由又近々新製兎煙の寄物廣告をなす由にて引換券は劇場寄席の來客に配付せんと目下計畫中の由

●靑二才の橫領 六月三十日午後

九時頃御成町玉屋旅館より南大門派出所へ屆出たと出發屆と同十一時二十分頃東洋旅館より出したる投宿屆との一ツは鬼頭虎次一ツは鬼頭廣次とありて原籍は同一なるより不審と認めたる尾崎巡査現場に行き本人に付き取調たるに言語曖昧にして擧動不審なるより派出所に同行を求め嚴重取調べたるに愛知縣愛知郡常盤村字篠原十三番地鬼頭虎次(十八)なるものにして平壤南門通り四丁目雜貨商廣田鐵次方に店員として雇はれ中賣掛代金五十餘圓を橫領逃走せし事判明せしより司法主任に引渡目下取調中なりと

●車輪の下敷となる 仁川花房

町土木請負業爲淺組常雇人夫仁川府內面平洞四十統九戶白聖澤(三七)は二十九日午後一時頃仁川驛鐵道構內に於て無蓋貨車にて八人掛りで重量百三十〆目余の車輪を積載中誤て該車輪が貨車に觸れ爲めに轉倒したる其の下敷となり頭部左半面を粉碎し哀れ悲慘の即死を遂げたるより一同大に驚き早速其筋に急報し久木田醫士及警官出張し檢視を遂げ死体は白の妻劉氏に引渡したり因に葬儀等の費用は湯淺氏支辨すべしと云ふ

●龍山分隊管區近狀 龍山憲兵

分隊の管轄なる新龍山漢芝面一面の清潔法を去二十六日より施行昨三十日終了せり尙過日の紙上に報道せし同管內の赤痢患者六名日本人四名朝鮮人二名は其後の經過何れも良好にして近々全治の模樣なりと

●淸人の盜難 仁川龍岡町二丁目住淸

人畢書合方へ三十日夜一時頃何者か忍入り同人寢室に在りし文庫裡に金三十圓在中のまゝ竊取され屆出づ

●笞にて五十答る 南部樂善坊崔景王

(四三)金士益(三七)姜奥圭(二四)の三名は一日午前一時頃賭博の現場を南部署に檢擧され各笞五十に處せらる

日曜集會

●メソヂスト教會 二日午前十時より藤岡牧師の「耶蘇之寛容」なる禮拜說教あり午後八時より同師の「呪はれたる無花果」なる傳道說教あり

●日本基督教會 二日午前十時より權村氏の「生命の革新」なる說教あり午後八時より同氏の「聖靈に於る新」あり

●京城教會 相生町なる京城教會にては理夜海老名、長田、渡瀨三牧師の說教にて聽衆講堂多大の感動を與へつゝあり一日夜までにて說教會を終り二日午前十時より洗禮晚餐式を擧行し海老名牧師の說教あり參聽隨意

十字架の力 海老名牧師

●微笑會 二日午後四時より初音町二丁目臨濟寺に於て圓山太嶺禪師宗門無盡燈論例會提唱あり

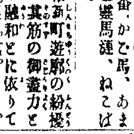
●信友會 南山本願寺內の同會は漸く其基礎を固め資金も充實せるより機關雜誌「信友」も大に現下の思想界に投じ今や着々各地に擴まり朝鮮內地に數ケ所の支部を設置するの機運に立至りたるは思想界の爲め慶ぶべき現象なるが二日は例會とて朝鮮布敎監督なる法學士龍山氏其他名士の講演及會員の感話質疑應答等ありて頗る有益なる會合わる皆なれば定めて盛會ならん向會員外の士と雖も傍聽自由なりと

●禪學提唱 若草町一丁目曹洞宗南大本山別院にては今日曜午前九時より田中道圓老師の無門關並般若心經の提唱ありと云ふ參聽隨意

●演藝だより

●壽座 一方ならず御愛顧を蒙つた片岡松之助一行も愈々二日限り當地打ち上げ歸東すべしと云ふ扮演し物は前日御披露の通り「義士劇」淺草奥山の場より大石十八ケ條の申開きまでに切り狂言は彌次郎兵衛喜多八赤阪並木の場で新內の出語りは京城藝妓が其の粹な咽喉を聽かせ樣と云ふ趣向なり見遁して後悔召さるな實際義士劇は手に入つたもの就中松之助の大石內藏之助は腹もあり貫目も充分なり見ない方は是非一度とれ勸めする

●浪花館 上景氣に打ち續け居る東京大坂合併演藝會二日の演し物はなら名所、淸元式三番、かご馬、あまかひ、物の賣聲、琵琶靈馬蓮、ねこはい、陸奥宗光韓き等



▲既報新町遊廓の紛擾事件は其筋の御盡力と双方の融和とに依りて無事落着な仕りたり芽出度も芽出度し▲次に例の妓夫一件も六月限り廢せられたり此れも結構なり▲小料理店側より出でたる娼妓は既得權を尊重して戶籍謄本のみを以て鑑札を下附せられたとか樓主連は高歲を唱ゐ居るが其の娼妓の中には憐れなのがある由なり▲客筋の良きを以て誇りとせる京城樓は仲居の打ち解けたる客の扱ひ振りに一層の好景氣なり、と褒めて置いて一つ惡口を申し遣はすぞ▲前にも申す通り此の樓の仲居客扱ひは至極なれど何う云ふものか掃除が嫌ひでた座敷に飾つた燕子花に蜘蛛の巢が一ッパイ、客あり「何うして彼れを取らぬか」と云へば「蚊が入つて來ない樣にと思ひまして」と濟ました顏をする女將丸るもの少し叱り玉ねよ▲同樓の鈴子如何にも初々しき物腰由緖ある人の胤と受取られる此の妓は文筆に長じ又茶の湯、活花、香、盆畫、盆石に堪能にして盆畫の如きは好みに依りて即席に仕る、三十日夜の如き甲斐國三阪峠の實景を描き出して鳳白畫をアッと驚かし申したりと之れを泥中に擢くものや誰れ▲同樓の鶯子客を撰り好みする、と怒つてるものあり振られたのなるべし▲玉家の辰子客扱ひ親切なりと申し居る者あり、厚遇たのなるべし▲同樓の燕名は体を表はすピーチピチ囀つて居る由なり、健康なのなるべし▲日曜樓の菊代は好きやんが田舍の方に居るとて暇さへあれば寫眞と手紙とを弄み居る由なり▲大桝屋の一子は此の頃金齒を入れたので夫れが見て貰ひたいので可笑しくもないのにハアハア笑つて居る相で御座います▲京城樓の月子や八重子の秘密事は此の次に御披露申上げる(鳳閣子)

●淸月の新妓輸入 淸樓月から一日より現はれたる新妓東京生れ和田はるゑ(二三)は金時と名乘り新潟生れ下田さき(二三)は國香と神奈川生れ金子かつ(二二)は喜の子と東京生れ保科はな(二十)は奴と名乘り今晩はと披露何れも待合及遊廓等にて假ねたる凄腕に候